No.	33
策定年月	令和3年4月
見直し年月	令和3年8月
	令和4年4月

麦・大豆生産性向上計画

都道府県名：岡山県

１．麦・大豆の生産性向上に向けた方針

（１）麦・大豆の生産性向上・産地強化に向けた方針

岡山県は、全耕地面積に対して主食用米の作付割合が約45%を占める水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、水田面積を維持し、安定した水田農業経営を実現するには、飼料用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大に当たっては、生産者戸数が減少し、担い手への集積が急速に進む中で、効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

また、実需と密接に連携し需要が拡大基調である品種へ生産を移行していくとともに、必要に応じて、耐病性品種等への切り替えを実需の理解を得ながら進める。

現在、岡山県においては、「岡山県水田農業振興方針」、「おかやま水田活用方針」により、水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、水田農業の更なる活性化を図っていく。

（２）県で推進する団地の基準等

岡山県においては、作業効率等を考慮し、「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地とする。

ただし、中山間地域においては農地の集約に制限があることから、1ha以上の場合を団地とする。

２．麦・大豆生産の現状と課題

（1）需要に応じた生産の現状と課題

・麦について、本県の二条大麦は作付面積は全国5位、収穫量は全国4位で、県南部を中心に栽培されている。令和3年産では約4割の3，000トンがビール用としてアサヒビール株式会社へ、残りの約6割は大粒用として焼酎や味噌等の原料として販売されている。また、小麦は、県南部を中心に栽培されており、うどん用、菓子用等の原料として日清製粉および県内の製粉会社を含め、約3，650トンが販売されている。令和元～3年産の豊作により、供給過剰傾向にあることから、「需要に応じた生産」となるよう、実需者から求められている需給環境等を勘案して、生産の抑制または維持、拡大を年産ごとに協議をしている。
・大豆については、作付面積の約7割を黒大豆が占めており、 県内の主たる黒大豆産地は勝央町、津山市、吉備中央町で、令和2年産作付面積はそれぞれ235ha（21%）、178ha（16%）、117ha（11%）である（※（）内は県内比）。また白大豆作付面積は県下全体で376haあり、県内の主たる産地は津山市、岡山市、美作市、鏡野町である。
主に、豆腐や味噌、納豆用として県内メーカーに販売されているが、ロットが小さく、年によって出荷量の増減が激しい。

（2）生産における現状と課題

近年、麦の作付面積は増加傾向で、単収は天候の影響による増減はあるものの、300～400kg/10a（全国平均とほぼ同等）程度で推移しているが、令和元～3年産が豊作であったことや、新型コロナウイル感染症拡大の影響による需要の減退により、供給過剰傾向となっている。特に、二条大麦で需給環境が悪く、生産抑制や麦種転換が必要だが、水稲の作期への影響や施設等の課題があり、対応が困難である。また、小麦、二条大麦ともにタンパク含有率の向上が課題であり、土壌改良や追肥等を実施していく必要がある。
大豆の作付面積は減少傾向で推移しており、単収も減少傾向である。特に黒大豆で、夏期の高温・干ばつの影響で着莢不足が起き、収量低下が問題となっている。また、排水不良や外来アサガオ類等の雑草被害も単収低下の大きな要因となっており、改善が必要である。
さらに近年は高齢化等により生産者が減少しており、集落営農や大型農家に生産が集中しており、一層の機械化・省力化が必要である。
また県奨励品種「トヨシロメ」において、紫斑病発生が問題となっており、耐病性の高い品種への転換が求められている。

（3）実績

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移（kg/10a）			生産量（t）		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産	令和元年産	令和2年産	令和3年産	令和元年産	令和2年産	令和3年産
小麦	ふくほのか	(705) 715	(810) 820	(873) 881	490	485	384	3,502	3,980	3,383
	せときらら	(67) 68	(67) 68	(86) 87	326	342	289	221	233	251
二条大麦	スカイゴールデン	(1,353) 1,372	(1,422) 1,440	(1,447) 1,460	316	377	306	4,331	5,427	4,468
	ミハルゴールド	(589) 597	(621) 629	(624) 630	400	423	333	2,386	2,662	2,098
	サチホゴールデン	－ －	－ －	(30) 30	－	－	300	－	－	90
はだか麦	キラリモチ	(118) 120	(223) 226	(50) 50	178	207	216	214	468	108
	ダイシモチ	(50) 51	(59) 60	(124) 125	384	385	－	196	231	－
	イチバンボシ	(2) 2	(2) 2	(25) 25	340	247	264	7	5	66
作物計		(2,890) 2,930	(3,210) 3,250	(3,290) 3,320	－ 427	－ 412	315	－ 12,522	－ 13,400	10,464

※R3年産「ダイシモチ」の生産量、単収は県内集荷業者の取扱いがなかったため、把握できていない

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移（kg/10a）			生産量（t）		
		平和30年産	令和元年産	令和2年産	平和30年産	令和元年産	令和2年産	平和30年産	令和元年産	令和2年産
黒大豆	丹波黒	1,166	1,148	1114	78	73	83	909	840	925
白大豆（青大豆等含む）	サチユタカ、トヨシロメ、タマホマレ等	464	432	428	103	97	111	481	420	475
作物計		(1,460) 1,630	(1,410) 1,580	(1,390) 1540	－ 85	－ 80	91	－ 1,390	－ 1,260	－ 1,400

※　田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
※　計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。
※　年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。
※　必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

３．課題解決に向けた取組方針・計画

（１）取組方針

①需要に応じた生産と販売の実現
　麦については、県内外の実需と密に連携し、販売促進を行うとともに、実需の求める、タンパク質含有率の向上、需要量の多い麦種や新品種への転換を検討し、ミスマッチが解消できるように努める。大豆については、土づくりや排水対策の推進等により、生産量を安定化させるとともに、白大豆奨励品種「トヨシロメ」については豆腐、味噌、納豆向けに実需者の評価を得ながら、耐病性が高い品種への切り替えを目指す。
②団地化の推進
　人・農地プランや農地中間管理事業による農地の集積の推進と連携しつつ、麦・大豆の団地化に向けた話し合いを推進する。土壌・排水条件・作業の効率化等を勘案した団地化の推進に向けた計画を各産地が作成できるよう支援する。
③土づくり・追肥の施用
　土壌に起因する低収要因の改善に向けて、土壌診断を実施し、その結果に基づく土壌改良資材の施肥、タンパク質含有率向上のため、JA・農業普及指導センターと連携を取り、穂肥・実肥の適期施用を実施する。

※　①需要に応じた生産と販売の実現、②団地化の推進については必ず記載する。その他必要な項目を産地の実態に即して記載すること。
※　都道府県等で開発した技術等に取り組む場合は本項目に技術名を記載すること。

３. 課題解決に向けた取組方針・計画

（2）計画

①　生産量

R3年度計画作成時

作物名	品種名	令和2年産			令和9年産（目標）			備考
		面積（ha）	単収(kg/10a)	生産量（t）	面積（ha）	単収(kg/10a)	生産量（t）	
小麦	ふくほのか	(810)　820	380	3,112	850	400	3,400	新品種候補を検討中
	せときらら	(67)　68	281	191	100	300	300	
二条大麦	スカイゴールデン	(1,422)　1,440	307	4,426	1,400	350	4,900	
	ミハルゴールド	(621)　629	322	2,026	－	－	－	
	サチホゴールデン	－　－	－	－	700	350	2,450	ミハルゴールドからの品種転換
はだか麦	キラリモチ	(223)　226	186	421	200	200	400	
	ダイシモチ	(59)　60	398	239	30	400	120	
	イチバンボシ	(2)　2	201	4	30	220	66	
作物計		(3,210)　3,250	－　321	－　10,435	－　3,310	－　352	－　11,636	令和2年産の麦は、豊作であったことから、単収は7中5等の数値として生産量を算定

作物名	品種名	令和元年産			令和8年産（目標）			備考
		面積（ha）	単収(kg/10a)	生産量（t）	面積（ha）	単収(kg/10a)	生産量（t）	
大豆	丹波黒、サチユタカ、トヨシロメ、タマホマレ　等	(1,410)　1580	－　80	－　1,260	(1,470)　1,640	－　120	－　1,970	
作物計		(1,410)　1580	－　80	－　1,260	(1,470)　1,640	－　120	－　1,970	

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

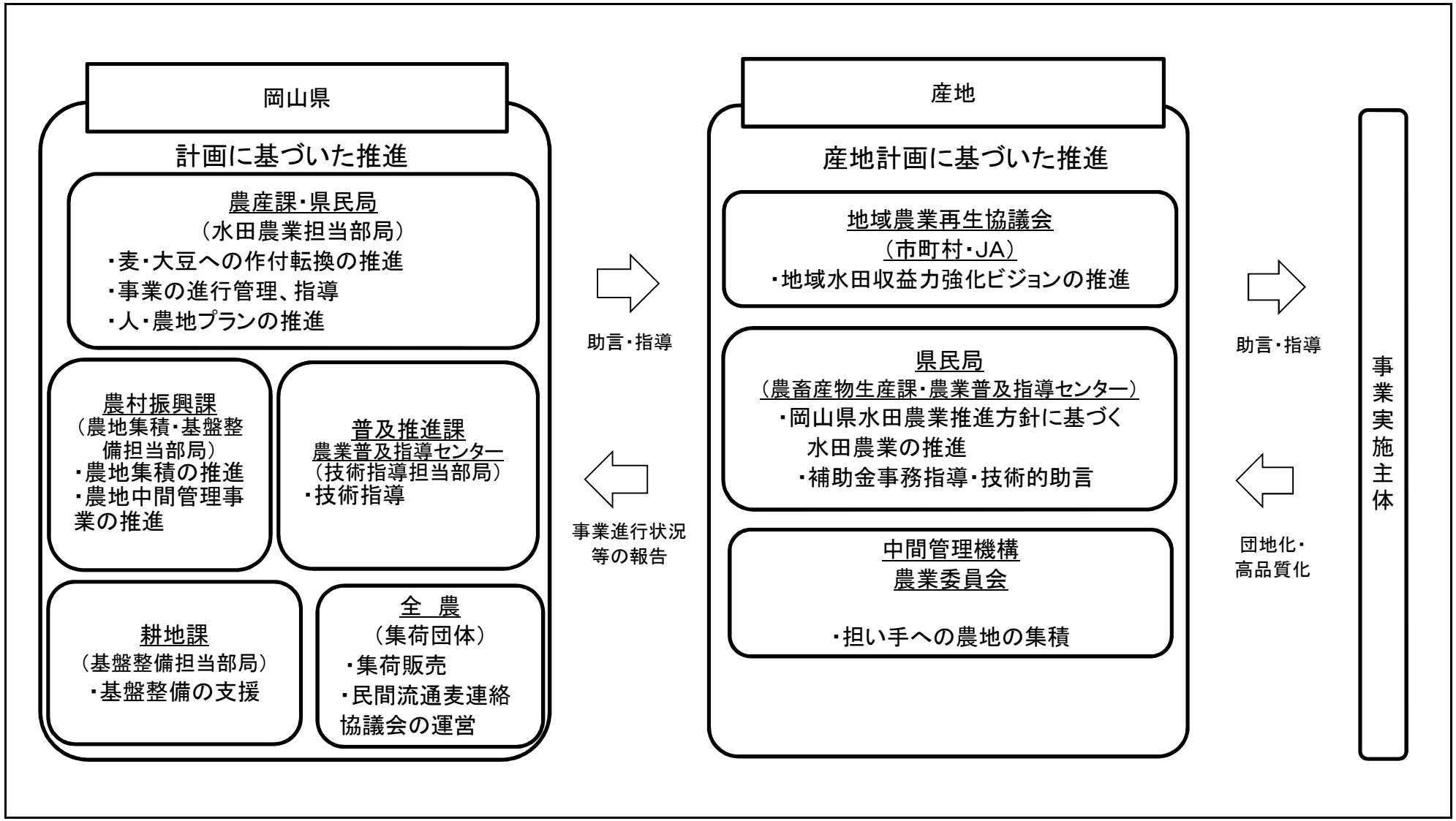
R4年度計画作成時

作物名	品種名	令和3年産（現状）			令和10年産（目標）			備考
		面積（ha）	単収(kg/10a)	生産量（t）	面積（ha）	単収(kg/10a)	生産量（t）	
小麦	ふくほのか	(873) 881	384	3,383	880	400	3,520	新品種候補を検討中
	せときらら	(86) 87	289	251	100	300	300	
二条大麦	スカイゴールデン	(1,447) 1,460	306	4,468	1,500	350	5,250	
	ミハルゴールド	(624) 630	333	2,098	－	－	－	
	サチホゴールデン	(30) 30	300	90	700	350	2,450	ミハルゴールドからの品種転換
はだか麦	キラリモチ	(50) 50	216	108	200	200	400	
	ダイシモチ	(124) 125	－	－	100	400	400	R3年産集荷組合実績は0、面積・生産量の年次変動が大きい
	イチバンボシ	(25) 25	264	66	30	220	66	
その他		(32) 32	－	－	30	－	－	
作物計		(3,290) 3,320	－ 315	－ 10,464	－ 3,540	－ 350	－ 12,386	R元～R3年産が豊作傾向のため、単収は7中5等の数値として生産量を算定

作物名	品種名	令和3年産（現状）			令和9年産（目標）			備考
		面積（ha）	単収(kg/10a)	生産量（t）	面積（ha）	単収(kg/10a)	生産量（t）	
大豆	丹波黒、サチユタカ、トヨシロメ、タマホマレ　等	(1,400) 1550	－ 82	－ 1,270	(1,470) 1,640	－ 120	－ 1,970	
作物計		(1,400) 1550	－ 82	－ 1,270	(1,470) 1,640	－ 120	－ 1,970	

※　田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
※　必要に応じて適宜行を追加・削除すること。
※　麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）
※　現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。
※　目標年は計画策定年から5年後に生産（麦においては播種）する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。
※　直近年が災害等により直近年の記載が適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。
※　作付面積、生産量以外の目標を設ける場合は適宜行を追加して記載すること。

４．推進体制及び役割


岡山県
計画に基づいた推進
農産課・県民局
（水田農業担当部局）
・麦・大豆への作付転換の推進
・事業の進行管理、指導
・人・農地プランの推進
農村振興課
（農地集積・基盤整備担当部局）
・農地集積の推進
・農地中間管理事業の推進
普及推進課
農業普及指導センター
（技術指導担当部局）
・技術指導
耕地課
（基盤整備担当部局）
・基盤整備の支援
全　農
（集荷団体）
・集荷販売
・民間流通麦連絡協議会の運営
助言・指導
事業進行状況等の報告
産地
産地計画に基づいた推進
地域農業再生協議会
（市町村・JA）
・地域水田収益力強化ビジョンの推進
県民局
（農畜産物生産課・農業普及指導センター）
・岡山県水田農業推進方針に基づく水田農業の推進
・補助金事務指導・技術的助言
中間管理機構
農業委員会
・担い手への農地の集積
助言・指導
団地化・高品質化
事業実施主体

５．他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1	岡山県水田農業振興方針	平成27年	令和3年3月改定
2	おかやま水田活用方針	平成29年	令和3年12月変更
3			

具体的連携内容

本計画の実施にあたっては、「岡山県水田農業振興方針」、「おかやま水田活用方針」との整合を図るとともに、特に団地化の推進にあたっては、集積された農地が効果的に活用されるよう地域の水田収益力強化ビジョン（以下、「ビジョン」）との連携を図る。

具体的には、麦・大豆の生産性向上に取組む地域のビジョンにおいても、作成時・見直し時に麦・大豆の生産性向上に係る内容を盛り込み、作物の団地化も考慮しビジョンを作成することとする。

６．活用予定の事業

関連	事業名	備考
○	水田麦・大豆産地生産性向上事業	需要に応じた生産、団地化の拡大に取り組む。また、土作りや施肥体系を改善し、麦のタンパク質含有率の向上等に取り組むとともに、機械導入による省力化を図り、適期に作業を行い品質向上と収量向上を目指す。

※県段階で想定している事業名について、記載願います。
※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を入力してください。その他の事業を活用する場合は「－」。
※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。

7. 麦・大豆産地生産性向上計画の作成主体

No	作成主体名	関係市町村	活用予定の事業
1	上南米麦クラブ（麦）	岡山市	水田麦・大豆産地生産性向上事業
2	（農）AKファーム	津山市	水田麦・大豆産地生産性向上事業
3	藤田豆類研究会	岡山市	水田麦・大豆産地生産性向上事業
4	（農）フレンドファーム福井	津山市	水田麦・大豆産地生産性向上事業
5	（農）田柄ファーム	津山市	水田麦・大豆産地生産性向上事業
6	（農）アグリ堀坂	津山市	水田麦・大豆産地生産性向上事業
7	（農）サンファーム西吉田	津山市	水田麦・大豆産地生産性向上事業
8	（株）丸尾ライスセンター	美作市	水田麦・大豆産地生産性向上事業

※　各主体が作成した「麦・大豆産地生産性向上計画」を添付するものとする。

麦・大豆産地生産性向上計画
岡山市西大寺上南産地

（作成主体：JA岡山上南米麦クラブ）

1．麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

岡山市東区上南地区は米麦栽培が全耕作面積のほぼ9割を占める水田地域である。
近年、主食用米の国内需要が減少する中で、当地域においては需給調整の手法として加工用米・飼料用米の生産拡大と併せて、小麦作の拡大が昭和後期より進められてきたが、実需者から高品質な小麦の供給を求められており、さらなる生産拡大が必要となっている。

また、農業者の高齢化等により担い手農家に農地集積が進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い小麦の産地づくりを推進していく。
このため、実需の要望に呼応しながら、高品質小麦の安定生産を実現することを目指す。
現在、経営所得安定対策等においては、戦略作物として加工用米等と並び小麦をあげており、岡山市地域農業再生協議会では、麦を大規模に作付けする生産者に対して支援を行うことで、水田フル活用の推進に取り組んでいる。

本計画において、小麦の生産性向上・高品質小麦の生産拡大に係る取組をより具体化するとともに、関係者との連携を強化し、農業のさらなる活性化を図る。

２．麦・大豆生産の現状と課題

（1）需要に応じた生産の現状と課題

本地域で生産している小麦品種はふくほのかの1品種であり、ほぼ全量が県内の製粉企業に販売されており、近年、実需からは品質向上（タンパク含有量の適正化）が求められている。高品質な小麦の安定供給には、省力化等により作業効率を向上させ、適期に農作業を行う必要がある。

（2）生産における現状と課題

近年、小麦の作付面積は増加傾向にあり、生産量も増加しているものの、実需が求める高品質小麦の生産量増加には至っていない。

生産量を増加させると、タンパク含有量が低下する傾向にあるため、土壌改良の施用による地力回復、追肥の生育適期施用等の実施が課題となっている。

また、担い手農家への農地集積が進み、作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失等が起こり、品質低下を引き起こしており、省力化機械やスマート農業の導入、小麦作付の団地化の拡大等の推進が必要である。

（3）実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	ふくほのか	(65.4) 65.4	(60.5) 60.5	(69.6) 69.6	(213) 213	(516) 516	(468) 468	(139.3) 139.3	(312.3) 312.3	(325.7) 325.7
大麦	ﾐﾊﾙｺﾞｰﾙﾄﾞ	(8.5) 8.5	(13.4) 13.4	(7.2) 7.2	(237) 237	(388) 388	(391) 391	(20.2) 20.2	(52) 52	(28.1) 28.1
	ｻﾁﾎｺﾞｰﾙﾃﾞﾝ	― ―	― ―	― ―	― ―	― ―	― ―	― ―	― ―	- -
	はだか麦	(0.6) 0.6	(0.9) 0.9	(0.9) 0.9	(336) 336	(497) 497	(307) 307	(2) 2	(4.6) 4.6	(2.6) 2.6
作物計		(74.5) 74.5	(74.8) 74.8	(77.7) 77.7	(216) 216	(493) 493	(459) 459	(161.5) 161.5	(368.9) 368.9	(356.4) 356.4

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成29年産	平和30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平和30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平和30年産	令和元年産(現状)
大豆										
作物計										

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。
※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。
※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	
小麦	ふくほのか					20.0	28.7%	20.0ha/69.6ha
大麦	ﾐﾊﾙｺﾞｰﾙﾄﾞ					0	0.0%	
	ｻﾁﾎｺﾞｰﾙﾃﾞﾝ					－	－	
	はだか麦					0	0.0%	
作物計						20.0	25.7%	20.0ha/77.7ha

作物名	品種名	平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	
大豆								
作物計								

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

岡山県においては、「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない畦畔、道路又は用水路と隣接する2筆以上の農地としており、これに準じて団地化率を算出する。

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。

（別添２）

No.	33-002
策定年月	令和3年8月
見直し年月	令和4年4月

麦・大豆産地生産性向上計画
津山市安井地区産地
（作成主体：農事組合法人AKファーム）

１．麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

津山市安井地区は、大豆の産地である作州地域の一端であり、米麦大豆栽培が全耕作面積の8割を超える水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中、当地域においては需給調整の手法として、大豆・小麦作の拡大が進められてきたが、実需者から高品質な小麦の供給を求められており、さらなる生産拡大が必要となっている。

また、現在、経営所得安定対策等においては、戦略作物として小麦や大豆が掲げられており、津山市農業再生協議会では、小麦の生産性向上、麦及び大豆を大規模に作付けする生産者に対して支援を行うことで、水田フル活用の推進に取り組んでいる。

このため、実需の要望に呼応しながら、高品質小麦や大豆の安定生産を実現することを目指す。

生産拡大に向けては、農業者の高齢化等により担い手農家に農地集積が進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い小麦及び大豆の産地づくりを推進していく。

本計画において、大豆や小麦の生産性や品質の向上、生産拡大に係る取組みをより具体化するとともに関係者との連携を強化し、農業・地域のさらなる活性化を図る。

２．麦・大豆生産の現状と課題

（1）需要に応じた生産の現状と課題

近年、実需からは品質向上（タンパク含有量の適正化）が求められている。
高品質な小麦の安定供給には、省力化等により作業効率を向上させ、適期に農作業を行う必要がある。
また、大豆の産地として知名度のある作州地域においても、生産農家の減少に伴い需要に対応した供給が困難となってきていることから、安定供給には省力化等により作業効率を向上させ、適期に農作業を行い収量向上を図る必要がある。

（2）生産における現状と課題

近年、小麦の作付面積は増加傾向にあり、生産量も増加しているものの、実需が求める高品質小麦の生産量増加には至っていない。
生産量を増加させるとタンパク含有量が低下する傾向にあるため、土壌改良の施用による地力回復、追肥の生育適期施用や適期収穫等の実施が課題となっている。
また、担い手農家への農地集積が進み、作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失等が起こり、品質低下を引き起こしており、省力化機械やスマート農業の導入、大豆・小麦作付の団地化の拡大等の推進が必要である。

（3）実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
小麦	せときらら	2.5	3.5	5.7	616.0	417.1	547.4	15.4	14.6	31.2
大麦										
作物計		2.5	3.5	5.7	616.0	417.1	547.4	15.4	14.6	31.2

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
大豆		4.8	6.1	5.5	133.3	132.8	190.9	6.4	8.1	10.5
作物計		4.8	6.1	5.5	133.3	132.8	190.9	6.4	8.1	10.5

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。
※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。
※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	せときらら	0	0.0%	1.2	32.4%	1.1	19.1%	
大麦								
作物計		0	0.0%	1.2	32.4%	1.1	19.1%	

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆		2.1	43.3%	1.7	28.6%	1.1	19.8%	
作物計		2.1	43.3%	1.7	28.6%	1.1	19.8%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

岡山県においては、中山間地域の「団地」は1ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない畦畔、道路、又は用水路と隣接する2筆以上の農地としており、これに準じて団地化率を算出する。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。

（別添２）

No.	33-003
策定年月	令和4年4月
見直し年月	

麦・大豆産地生産性向上計画
岡山市南区藤田地区
（作成主体：藤田豆類研究会）

１．麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

岡山市南区藤田は、児島湾干拓地の中心的大規模水田地域である。

近年主食用米の国内需要が減少する中で、藤田地区では、水稲に代わる新たな水田作物として、実需者からの引き合いが多い大豆についての産地化を行う。

具体的には、大豆の耕作面積を現状（令和3年度）の2.4倍に増加することにより、実需者の需要に応じた高い品質と安定した生産を進めていく。また、作付農地を集約化し、団地化を図ることにより、大型機械を使った作業を効率的に行い、生産性の高い大豆の産地づくりを推進していく。

現在、岡山市地域農業再生協議会では経営所得安定対策等において、戦略作物として加工用米等と並び麦・大豆をあげており、大豆を大規模に作付けする生産者に対して支援を行うことで、水田フル活用の推進に取り組んでいる。

本計画において、大豆の生産性向上及び高品質大豆の生産拡大に係る取り組みを具体化し、関係者との連携を強化し、地域農業のさらなる活性化を図る。

２．麦・大豆生産の現状と課題

（1）需要に応じた生産の現状と課題

取組主体がある藤田地区は、日本三大干拓地の一つである児島湾干拓地の中心的水田地帯である。現在主食用米と二条大麦をはじめとした麦の二毛作栽培が中心である。

昨今の米価下落により主食用米による売上高が激減する中、水稲に代わる新たな水田作物の産地化を進める必要がある。

（2）生産における現状と課題

上記の通り、干拓地であるため、水稲以外の作物を栽培する場合、水はけの悪さが問題となることから、湿害対策技術の励行が急務である。

また、産地で栽培されている主食用米は晩生品種が主流であるため、主食用米の田植え時期と大豆播種時期及び主食用米の刈取作業後期と大豆収穫時期が重なる。主食用米作業と被らない効率的な播種技術等の栽培技術の普及である必要がある。

（3）実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移（kg/10a）			生産量（t）		
		○年産	○年産	○年産（現状）	○年産	○年産	○年産（現状）	○年産	○年産	○年産（現状）
小麦										
大麦										
作物計		(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移（kg/10a）			生産量（t）		
		R1年産	R2年産	R3年産（現状）	R1年産	R2年産	R3年産（現状）	R1年産	R2年産	R3年産（現状）
大豆	丹波黒	0	0	(11) 11			(80) 80			(9) 9
作物計		(0) 0	(0) 0	(11) 11	(0) 0	(0) 0	(80) 80	(0) 0	(0) 0	(9) 9

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。
※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。
※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	○年産		○年産		○年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	
小麦								
大麦								
作物計		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

作物名	品種名	R1年産		R2年産		R3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	
大豆	丹波黒	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
作物計		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

岡山県においては、「団地」は4ha以上の同一作物が作付けされており、一連の作業に支障が生じない畦畔、道路又は用水路と隣接する2筆以上の農地としており、これに準じて団地化率を算出する。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。

（別添２）

No.	33-004
策定年月	令和4年4月
見直し年月	

麦・大豆産地生産性向上計画
津山市福井地区
（作成主体：フレンドファーム福井）

１．麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

津山市福井地区は津山市の東部に位置し、水稲を中心とした作付を行っている地区である。地区の面積の半数以上が山林で地区を囲うような形となっているうえ、地区内に河川が蛇行しているため、圃場の存在位置が複数箇所ある。地区民の多くは兼業農家がほとんどで専業農家はいない現状である。小麦の作付に関しては、地区内唯一の集落営農法人である本組合のみが取り組んでいる。

近年、主食用米の国内需要が減少する中、需要に応じるためと、田の形状による耕作の観点から以前から小麦の作付を進めてきた。また、福井地区は小麦の需要拡大に向け、山間部であるが農地を借りて小麦の作付をしている。

特に現状は小麦を活用した食品が数多く生産・販売されるようになり、ますます小麦の拡大が求められている。このため、福井地区では、小麦生産の拡大に向けて農地の集積と効率的作業や高品質な小麦栽培のための土壌改良に向けた取組をより具体化する。また、西日本農研などの研究機関と連携し、生産向上に資する取組を行う。

２．麦・大豆生産の現状と課題

（1）需要に応じた生産の現状と課題

本地域において生産している小麦品種はせときらら1品種である。播種、防除、追肥などの作業が短期間に集中するため作業適期の遅れなどが生じている。実需者から高品質な小麦の生産が求められる中、安定供給していくためには省力化等による作業効率の向上が求められる。

（2）生産における現状と課題

近年、小麦の作付面積は増加傾向にあり、生産量も増加しているものの、トラクターの馬力が小さいため、播種に時間がかかり降雨後に播種が出来なくなり生育にばらつきが生じて予防等短期に出来ない。また、コンバインが1台のため、刈取が遅くなり、実需が求める高品質小麦の生産量確保には至っていない。

生産量を増加させると、タンパク含有量が低下する傾向にあるため、排水対策や土壌改良の施用による地力回復、適期収穫等の実施が課題となっている。

（3）実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
小麦	せときらら	(0) 4.5	(0) 6.7	(0) 5.5	417	320	345	19	21	19
大麦										
作物計		(0) 4.5	(0) 6.7	(0) 5.5	(0) 417	(0) 320	(0) 345	(0) 19	(0) 21	(0) 19

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		○年産	○年産	○年産(現状)	○年産	○年産	○年産(現状)	○年産	○年産	○年産(現状)
大豆										
作物計		(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。
※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。
※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産（現状）		備考
		団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	
小麦	せときらら	0	0.0%	2.7	40.2%	0	0.0%	
大麦								
作物計		0	0.0%	2.7	40.2%	0	0.0%	

作物名	品種名	○年産		○年産		○年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	
大豆								
作物計		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

岡山県においては、中山間地域の「団地」は1ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない畦畔、道路、又は用水路と隣接する2筆以上の農地としており、これに準じて団地化率を算出する。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。

（別添２）

No.	33-005
策定年月	令和4年4月
見直し年月	

麦・大豆産地生産性向上計画
岡山県津山市西中下産地
（作成主体：農事組合法人田柄ファーム）

１．麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

田柄ファームは、平成29年9月の設立当初から、小麦と白大豆の作付けを行っている。小麦の収量は基準単収に達している一方で、白大豆においては雑草対策、害虫等の防除が出来ず基準単収に至っていない。令和2年度の主食用米の過剰在庫を踏まえて、令和3年度は、水稲において、主食用米は組合員等への販売を確保し、主に飼料米及び米粉米に移行した。

今後は、我が国の主要農産物の需要と供給の点から、生産増強が求められている小麦及び白大豆の生産増強に向けた取り組みを行うこととする。

具体的な取り組み目標としての圃場面積は、パン用小麦であるせときららを1,000a、白大豆は里のほほえみ、もち大豆を500aとする。小麦と白大豆の生産増強に向けた取り組みを行うに当たっては、本事業を活用した農業用機械設備の導入により、湿害対策、除草対策を行うとともに、適切な圃場の管理及び適期の収穫に取り組む。

２．麦・大豆生産の現状と課題

（1）需要に応じた生産の現状と課題

我が国の主食米の需給調整及び在庫の増加等から、主食米の作付けを減少させて、飼料米、米粉米に移行するとともに、小麦及び白大豆等の作付けを適切な作業効率の下で作付け面積を増強していく計画を策定している。小麦（せときらら）及び白大豆の需要における現状として、それらの作付けは、原則、2年3作（水稲・小麦・白大豆等）で実施する方針の下で、圃場の湿害対策が可能であり連続作業に適した圃場を選定して作付け面積を増強する。

圃場面積増強の課題として、小麦の作付け面積を増強するためには、適切な湿害対策及び梅雨入り前の適期の短期間の刈り取りが必須である。また、白大豆は、播種前後の除草剤散布及び生育期の除草対策が必須である。それらの作業に対応する農業機械設備の整備が必要である。

（2）生産における現状と課題

小麦（せときらら）及び白大豆（里のほほえみ・もち大豆）の生産における現状は、圃場の湿害対策が可能であり連続作業に適した圃場を選定しているが、作業効率の良くない既存の農業用機械設備で小麦及び白大豆を生産しており、小麦の生産は基準収量に達しているが、白大豆の除草対策の作業効率は低く、刈取作業の委託のため適期の作業とならず、収量は良くない状況である。

小麦1,000a及び白大豆500aの圃場での生産の課題として、小麦は、湿害対策としての圃場管理と耕運及び梅雨入り前の適期の刈り取りが必須である。また、白大豆は、播種前後の除草剤散布及び生育期の除草対策が必須であり、また、就熟期の害虫防除及び適期の刈取作業等が必要である。それらの作業に対応する高効率の農業機械設備の整備が必要である。

（3）実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移（kg/10a）			生産量（t）		
		元年産	2年産	3年産（現状）	元年産	2年産	3年産（現状）	元年産	2年産	3年産（現状）
小麦	せときらら	3.73	4.36	6.41	509.38	389.17	384.40	19.00	16.97	24.64
大麦										
作物計		3.73	4.36	6.41	509.38	389.17	384.40	19.00	16.97	24.64

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移（kg/10a）			生産量（t）		
		元年産	2年産	3年産（現状）	元年産	2年産	3年産（現状）	元年産	2年産	3年産（現状）
大豆	さちゆたか	2.88			61.46			1.77		
	里のほほえみ		0.68	2.28		97.06	17.11		0.66	0.39
	もち大豆									
作物計		2.88	0.68	2.28	61.46	97.06	17.11	1.77	0.66	0.39

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。
※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。
※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	元年産		2年産		3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	せときらら	2.79	74.8%	1.72	39.4%	3.07	47.9%	
大麦								
作物計		2.79	74.8%	1.72	39.4%	3.07	47.9%	

作物名	品種名	元年産		2年産		3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	さちゆたか	1.34	46.2%					
	里のほほえみ			0.00	0.0%	1.45	63.4%	
	もち大豆							
作物計		1.34	46.5%	0.00	0.0%	1.45	63.4%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

岡山県においては、中山間地域の「団地」は1ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない畦畔、道路、又は用水路と隣接する2筆以上の農地としており、これに準じて団地化率を算出する。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。

（別添２）

No.	33-006
策定年月	令和4年4月
見直し年月	

麦・大豆産地生産性向上計画
津山市堀坂地区
（作成主体：農事組合法人アグリ堀坂）

１．麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

津山市堀坂地区は津山市北東部に位置し、米麦栽培が全耕作面積の８割を超える水田地域である。法人設立当初よりブロックローテーションを行い、大豆・小麦などの、転作作物に取り組んでいる。近年主食用米の国内需要が減少する中、当地域においては需給調整の手法として、小麦作の拡大を進めている。農業者の高齢化等によりさらに農地集積が進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い小麦の産地づくりを推進していく。本計画において、小麦の産地化に向け生産性向上・高品質化を図る。

２．麦・大豆生産の現状と課題

（1）需要に応じた生産の現状と課題

本地域において生産している小麦品種はふくほのか1品種である。播種、防除、追肥などの作業が短期間に集中するため作業適期の遅れなどが生じている。実需者から高品質な小麦の生産が求められる中、安定供給していくためには省力化等による作業効率の向上が求められる。

（2）生産における現状と課題

水稲と小麦の二毛作の面積が拡大することにより、水稲収穫後の麦の播種、防除、追肥などの作業や麦の収穫が短期間に集中することが相まって、作業適期の遅れなどが生じているため、省力化機械やスマート農業の導入、小麦作付の団地化の拡大の推進が必要である。

（3）実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移（kg/10a）			生産量（t）		
		令和元年産	2年産	3年産（現状）	令和元年産	2年産	3年産（現状）	令和元年産	2年産	3年産（現状）
小麦	ふくほのか	9.8	9.8	10.12	502	411	450	49.2	40.3	45.5
大麦										
作物計		9.8	9.8	10.12	502	411	450	49.2	40.3	45.5

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移（kg/10a）			生産量（t）		
		令和元年産	2年産	3年産（現状）	令和元年産	2年産	3年産（現状）	令和元年産	2年産	3年産（現状）
大豆										
作物計		(0.00) 0.00	(0.00) 0.00	(0.00) 0.00	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0.00	(0) 0.00	(0) 0.00

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。
※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。
※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	令和元年産		2年産		3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	
小麦	ふくほのか	9	91.8%	8.5	86.7%	5.256	51.9%	
大麦								
作物計		9	0.0%	8.5	0.0%	5.256	51.9%	

作物名	品種名	令和元年産		2年産		3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	
大豆								
作物計		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

岡山県においては、中山間地域の「団地」は1ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない畦畔、道路、又は用水路と隣接する2筆以上の農地としており、これに準じて団地化率を算出する。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。

（別添２）

No.	33-007
策定年月	令和4年4月
見直し年月	

麦・大豆産地生産性向上計画
津山市西吉田・金井（植木）地区
（作成主体：農事組合法人サンファーム西吉田）

１．麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

津山市西吉田地区は津山市の東部に位置し、水稲を中心とした作付を行っている地区である。圃場整備ができていない田が多く、地区民の多くは兼業農家がほとんどで専業農家はいない現状である。麦の作付においては本組合を含む2つの集落営農組織で取り組んでいる。

近年、主食用米の国内需要が減少する中、需要に応じるためと、田の形状による耕作の観点から以前から麦の作付を進めてきた。また、植木地区は麦の需要拡大に向け、山間部であるが農地を借りて麦の作付をしている。

特に現状は麦を活用した食品が数多く生産・販売されるようになり、ますます麦の拡大が求められている。このため、西吉田地区では、麦生産の拡大に向けて農地の集積と効率的作業や高品質な麦栽培のための土壌改良に向けた取組をより具体化する。

２．麦・大豆生産の現状と課題

（1）需要に応じた生産の現状と課題

本地域において生産している小麦品種はせときらら1品種である。近年、実需者からは小麦の品質向上(タンパク含有量の適正化)が求められている。高品質な小麦の安定供給には西吉田地区、植木地区ともに計画的な土壌改良と省力化等による作業効率の向上が求められる。

（2）生産における現状と課題

近年、小麦の作付面積は増加傾向にあり、生産量も増加しているものの、実需が求める高品質小麦の生産量確保には至っていない。

生産量を増加させると、タンパク含有量が低下する傾向にあるため、排水対策や土壌改良の施用による地力回復、適期収穫等の実施が課題となっている。

（3）実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
小麦	せときらら	5.581	5.809	3.316	158.5	177.7	260.4	8.847	10.323	8.635
大麦										
作物計		5.581	5.809	3.316	158.5	177.7	260.4	8.847	10.323	8.635

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
大豆										
作物計		(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。
※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。
※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産（現状）		備考
		団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	
小麦	せときらら	0	0%	0	0%	1.424	42.9%	
大麦								
作物計		0	0%	0	0%	1.424	42.9%	

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産（現状）		備考
		団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	団地化面積(ha)	団地化率（%）	
大豆								
作物計		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

岡山県においては、中山間地域の「団地」は1ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない畦畔、道路、又は用水路と隣接する2筆以上の農地としており、これに準じて団地化率を算出する。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。
※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。

（別添２）

No.	33-008
策定年月	令和4年4月
見直し年月	

麦・大豆産地生産性向上計画
美作市英田地区
（作成主体：株式会社丸尾ライスセンター）

１．麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

美作市英田地区は、美作市南部地域に位置し、近年でこそ麦・大豆栽培があるものの未だ（R3）米栽培が、全耕作面積の６４．１％を占める水田地域である。近年、主食用米の国内需要が減少する中、現在、経営所得安定対策等において戦略作物として位置づけられている国産麦・大豆への更なる生産拡大が必要となっている。また、美作市農業再生協議会においても、麦・大豆の大規模作付け助成や戦略作物どうしの二毛作助成など支援をしている。農業経営の安定を図るため需要に応じた麦・大豆の安定生産を実現することを目指す。生産拡大においては、地域農業者の高齢化等により、担い手農家に農地集積している現状も鑑み、昨年法人化をし、効率的に地域農業を支えていくこととしている。本計画において、麦・大豆の生産拡大に係る取組、問題点をより具体化するとともに、関係者との連携を強化し、地域農業の更なる活性化を図る。

２．麦・大豆生産の現状と課題

（1）需要に応じた生産の現状と課題

麦については、美作市で推奨している「はだか麦」の作付けを行っているもののR1・R2産は全国的な大豊作及び作付面積の拡大により、需要に応じた作付け計画が必要である。
大豆においては、需要はあるものの供給が困難となっていることから安定供給を行うため、中間管理機構を活用した更なる農地集積、麦あとの二毛作、また機械省力化により作業効率を向上させ、適期に農作業を行い、収量向上を図る必要がある。

（2）生産における現状と課題

近年、麦作付け面積・生産量は増加したものの供給過多ぎみとの情報もあり、実需要者の確保と共に、需要に応じた増減計画が必要と感じる。大豆においては、担い手農家への集積・農地の効率化により面積拡大が期待されるが、適期作業の逸失等が起こる可能性が大いにある為団地化の推進により作業効率のアップ及び省力化機械の導入により作業面積の拡大を図る。

（3）実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		元年産	2年産	3年産(現状)	元年産	2年産	3年産(現状)	元年産	2年産	3年産(現状)
小麦										
はだか麦	キラリモチ	9	14	15	334	275	292	28	38	43
作物計		9	14	15	334	275	292	28	38	43

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		元年産	2年産	3年産(現状)	元年産	2年産	3年産(現状)	元年産	2年産	3年産(現状)
大豆	サチユタカ	0	0	2			205			4
作物計		0	0	2	0	0	205	0	0	4

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。
※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。
※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	元年産		2年産		3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦								
はだか麦	キラリモチ	3	35%	5	36%	4	27%	
作物計		3	35%	5	36%	4	27%	

作物名	品種名	元年産		2年産		3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	サチユタカ					0	0.0%	
作物計		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

岡山県の計画において、中山間地域の「団地」は、1ha以上の同一作物が作付けされており、一連の農作業に支障が生じない畦畔、道路又は用水路と隣接する2筆以上の農地としており、これに準じて団地化率を算出する。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。